

第 21 号	2005/ 2/18	・特集なし (トップ記事：附属明石中学校生徒の受賞 / 震災 10 周年メモリアル学術シンポジウム開催 / 震災復興 10 周年「神戸国際絵画コンペ」入選 / 北京師範大学との交流討論会)
--------	------------	---

- (2) 「発達科学部便り」のホームページ掲載に関する手順・規則等，検討・審議した事項
- ・「発達科学部便り」のホームページ掲載に関する申合せ(平成 16. 7. 21 教授会にて了承)
 - ・学部便りホームページ掲載までの著作権処理・手順等の問題点の検討・審議，
 - ・技術的な作業体制の検討・模索と整備
- (3) 「発達科学部便り」のホームページへの掲載：第 12～16 号(平成 17. 3. 24 現在)
- (4) 委員の交代・引継ぎ並びに著作権上の留意事項への慎重な取扱い姿勢の再確認。

2. 現在検討中の課題等

発行済みの「発達科学部便り」第 17 号～21 号の記事の，ホームページ掲載への許諾申請手続きを進め，ホームページアップデートを進める。著作権上の留意事項への慎重さの再構築。

(「発達科学部便り」編集委員 鈴木幹雄)

3.6. 環境・施設

3-6-1. 学舎検討委員会

本委員会は，発達科学部の土地及び建物等(以下「学舎等」という。)の円滑な運営を図ることを目的として設置され，学舎等の将来項目に関する事項，有効活用及び点検・評価に関する事項，その他学舎等の管理運営に関する事項を審議するものである。今年度の委員は，平川和文(委員長)，蛭名邦禎，梅宮弘光，藤田大輔(平成 16 年 9 月まで)，五味克久(平成 16 年 10 月から)である。

1. 本年度の活動状況

(1) A 棟 1・2 階の改修及び再配置の実施

昨年度教授会で審議・了承された発達支援インスティテュートの設置，学生アメニティスペースの整備，及び学部長室・事務室等の管理部門の一元化整備のための，A 棟 1・2 階の改修工事が実施され，各機能が再配置された。

(2) 人間科学研究センター廃止に伴う E 棟の再配置計画について

平成 17 年度からの学部改組で人間科学研究センターが廃止され，新たに発達支援インスティテュートが設置される。また，発達科学部が 3 学科から 4 学科へ学科改組される。これらの動きに伴い，E 棟の人間科学研究センターの各部屋の再利用について検討した。E 棟再配置の基本的な考え方は次のとおりである。

棟屋上に設置されているエアコンの室外機の騒音・振動音対策の工事を行う。

昨年度からの A 棟の再配置により部屋を明け渡さなければならなかった部屋の獲得を優先する。

学部の次年度の重点項目である学科改組に伴う新学科の充実に向けての部屋の配分を優先する。

2. 次年度以降の課題

神戸大学は本年度から国立大学法人神戸大学と法人化された。発達科学部も，今まで以上に学部の特徴を打ち出さなければならない。そのためにも，学舎の有効利用・効率化，学生へのサー

ビス機能の向上等，学舎全体の管理・運営の見直しは重要な課題である。次年度以降は，大きな課題として本委員会が中心になって立案した発達科学部施設長期計画の推進が，また，次年度の課題としてE棟4階及びA棟の学部長預かりの部屋の有効再利用を検討する必要があるであろう。

（学舎検討委員会委員長 平川和文）

3-6-2．三次元動作解析ユーザ会議運営委員会

本委員会は，平成7年度学部教育ハイテク設備費によって設置された「運動の三次元的解析表示システム」を維持・管理するために組織された委員会である。運営委員会ではユーザ会議にかける原案を審議・決定し，その後，ユーザ会議で最終決定することとなっているので，ここではユーザ会議の審議事項も合わせて報告する。

1．平成16年10月6日，運営委員会にて「平成16年度予算使途」について審議した後，さらにメールによる意見交換を経て，以下の1件の提案と1件の報告を運営委員会審議結果としてまとめた。

(1) 平成16年度三次元動作解析システムに係わる予算執行についての提案

運営委員会では，今年度の予算執行については，この予算が最終年を迎えること，前年度からの予算執行に係わる申し送りがあること，及び本年度が最後であろう予算でもって現システムの一層の充実を図りたいこと等を考慮した結果，以下の2つの物品を購入する。

プロテクトキー購入に伴い，三次元動作計測ソフトを購入する。

購入によって得られる効果として，設置式（D棟）及び移動式（F棟）の三次元動作解析システムの構築が可能となる。システムの一層の充実につながる

残金は，校正装置に当てる。

購入によって得られる効果として，設置式及び移動式の三次元動作解析システムの同時稼働が可能となる。

(2) 年内中に現在のシステムのデモンストレーションを行う。

2．平成16年10月26日，登録ユーザ全員にメールによる方法を用いて，平成16年度予算使途についての運営委員会提案に対する意見を求めた。

3．平成16年11月10日，運営委員会提案に対して異論が出なかったことから，登録ユーザに対し運営委員会提案が承認されたとの報告を行った。

4．平成16年12月10日，三次元動作解析システム・デモンストレーションの開催

D棟103室（身体運動科学実験室）にて，プロテクトキー納入業者が来学し，デモンストレーションを実施した。参加者は，9名であった。

その後，A棟6階に移動し，福田助教授からフォースプレートの説明を聞いた。参加者は，5名であった。

5．システムの使用状況について

(1) 授業での使用

身体運動科学実験（使用時間：20時間程度）

身体運動技術論演習2（使用時間：20時間程度）

(2) 卒業研究・修士論文に関わる使用（使用時間：200時間程度）

これら以外の授業等でも使用されているようであるが，把握できなかった。

6．本システムの課題

本システムの導入から 10 年が経過し、今後このシステムをどのように管理運営していくかについて検討する必要があると思われる。

(三次元動作解析ユーザ会議運営委員会委員長 岡田修一)

3-6-3 . 車両対策委員会

夜間帯における諸施設の保全とバイク入出構時のエンジン音などの騒音発生防止のため、平成 15 年度に C 棟西側に夜間専用駐車場を設置することが認められ、この夜間専用駐車場を 5 月連休明けから供用開始した。新しい利用体制には特に問題なく移行できた。

車両による入構許可申請は 7 件あり、大学院生の研究遂行上必要であると認め、許可した。

(車両対策委員会委員長 矢野 澄雄)

3-6-4 . 環境整備委員会

1 . 平成 16 年 4 月から全学組織として環境管理センターが発足し、その運営委員が本委員会の委員長として選出された。新たに各学部 to 設けられた環境管理員には、本委員会委員 3 名全員が当たり、6 月には環境管理センター主催の説明・講習会を受講した。そして省エネルギーの推進のための取り組みとして、

(1) 省エネルギー調査 (7 月 12 日)

(2) 空調機のフィルタ掃除デー (7 月 28 日)

を実施した。各部屋の冷房設定温度や不在点灯・不在空調の現状を把握した。また、各部屋から汚れたフィルタを持ち寄って一緒に水洗いすることにより、エネルギー消費量低減への構成員一人ひとりのわずかな努力の積み重ねの第一歩とした。

2 . 発達科学部キャンパスの除草作業を 10 月に行った。3 学科と事務に割り当てた責任分区域で、計画された日時に教職員及び学生・院生で実施された。

3 . 来年度からは車両対策委員会、環境整備委員会、廃棄物処理委員会の 3 つの委員会が環境管理委員会として統合される。全学の環境管理センターに対応した運営体制に変わる。

(環境整備委員会委員長 矢野澄雄)

3-6-5 . 廃棄物処理委員会

発達学部には、長年にわたり蓄積されてきた不要化学薬品が大量に保管されている。廃棄物処理委員会では、平成 15 年度より、各教官実験室や学生実験室に散在している不要化学薬品を順次整理し、処理を業者に委託する措置をとっている。平成 16 年度においては、処理費として 50 万円を計上し、毒物 (水銀又はその化合物、シアン化合物など) 及び劇物 (鉛又はその化合物、六価クロム化合物、四塩化炭素など) を中心に廃棄処分を行った。廃棄処分した化学薬品は 204 本 (89.97kg) で、要した費用は 495,390 円であった。しかしながら、予算の都合上、不要化学薬品の一掃には至らなかった。早急に残りの不要化学薬品 (特に毒物・劇物) を廃棄処分するのが今後の課題である。

(廃棄物処理委員会委員長 齊藤恵逸)